



**AGC 株式会社**

IR DAY 2022 <DAY 1> オートモーティブ

2022年6月13日

## イベント概要

---

[企業名] AGC 株式会社

[企業 ID] 5201

[イベント言語] JPN

[イベント種類] アナリスト説明会

[イベント名] IR DAY 2022 <DAY 1>

[日程] 2022 年 6 月 13 日

[開催場所] インターネット配信

[登壇者]

オートモーティブカンパニー プレジデント

竹川 善雄 (以下、竹川)

広報・IR 部長

小川 知香子 (以下、小川)

## 登壇

---

続いて、オートモーティブ事業の事業戦略に関して、オートモーティブカンパニープレジデントの竹川より説明させていただきます。竹川さん、よろしくお願いいたします。

### 目次



- 事業概要
- 収益改善に向けた取り組み
- 中長期的な取り組み
- AGCグループの技術力

---

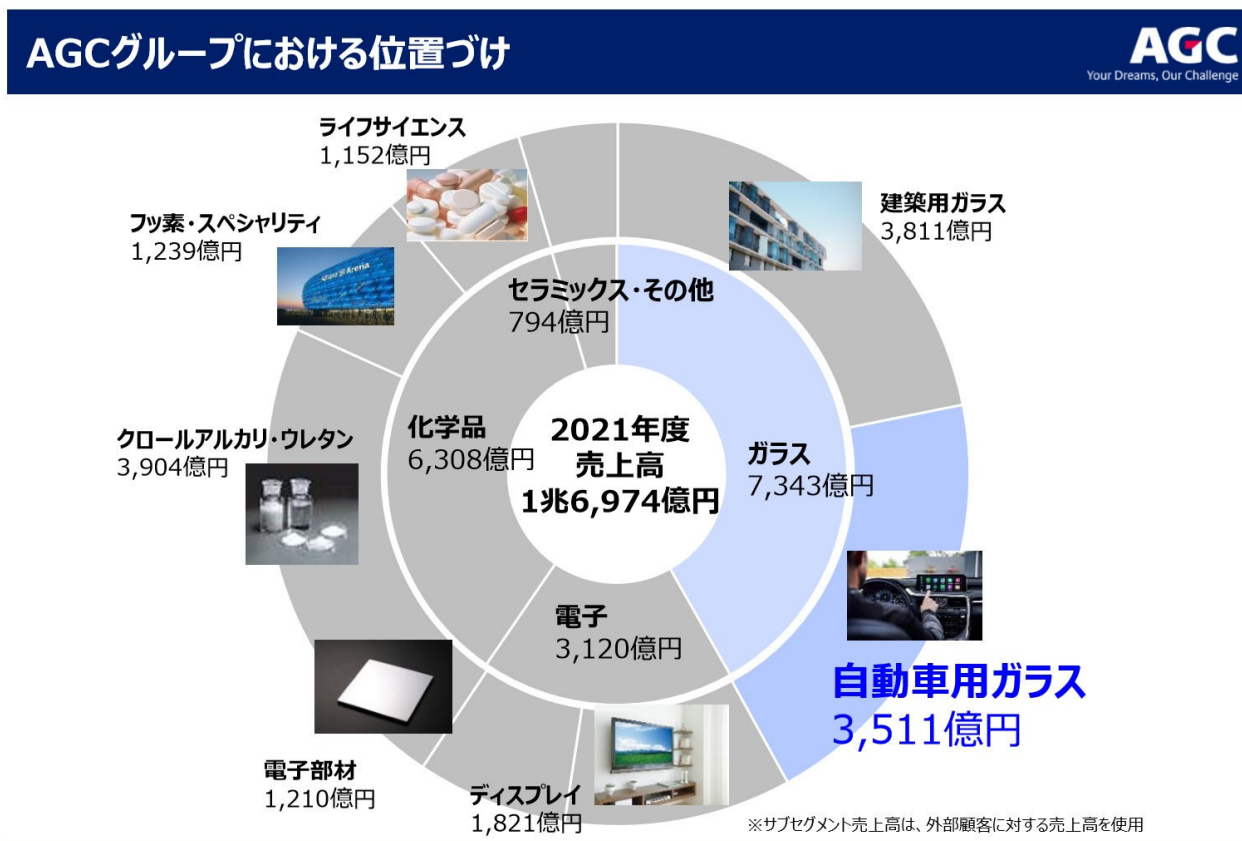
©AGC Inc. 2

**竹川：**オートモーティブカンパニーの竹川でございます。それでは、オートモーティブ事業の事業概況と取り組みについてご説明させていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

まず、このページ、本日のアジェンダです。

最初に、オートモーティブ事業全体の概要やビジョン、ミッション、主な商品等をご説明し、加えて、われわれが提供します社会的価値についてもお示しいたします。次に、現在の喫緊の課題であります、コア事業である自動車用ガラス事業についての短期、中期での収益改善に向けた施策をご説明いたします。

その後、モビリティ事業について、中長期でのCASE 社会に向けた取り組みをご紹介させていただきます。最後に、AGC グループの総合技術力によって生み出しました高機能製品について、その一部をご説明させていただきたいと思えます。



©AGC Inc. 4

最初に、オートモーティブ事業の概要についてご説明いたします。

AGC グループにおいてオートモーティブ事業は、ガラスセグメントの一部を構成しておりますが、モビリティ事業を含めた事業全体の売上金額は、昨年末、2021年12月期で約3,500億円となっております。これはAGCグループ全体の売上金額の約2割を占めているということになります。ただ、コロナ以前と比べるとかなり売上が下がっている状況でございます。

■ビジョン

『安全』『快適』で『つながる』クルマ社会の実現に貢献し  
社会からの信頼を得よう

■ミッション

グローバルでクルマ社会の発展ために  
喜ばれる**新ビジネス**（新商品、新技術、サービス）を創出し  
提供し続ける

■2030年のありたい姿

独自の部材・ソリューションにより  
サステナブルなモビリティ社会（CASE）の実現をリードし  
自らも進化し続ける事業でありたい

次は、われわれオートモーティブ事業が掲げているビジョン、ミッション。そして、2030年に向けてのありたい姿でございます。

われわれの事業は、CASEにも通じたモビリティ社会の大変革に向けて、広い範囲においてさまざまな社会的価値を創出する可能性を有していると考えております。われわれの強みを生かし、新商品、新技術、新サービスにより、幅広い新ビジネスを創出、拡大し続けることで、この2030年のありたい姿を実現していきたいと考えております。

## 主要製品 (1) 自動車用ガラス (外装ガラス)

**AGC**  
Your Dreams, Our Challenge

- コーティングやガラス加工の総合技術力・高付加価値品ラインナップ
- 有機・無機材料技術、共通基盤技術を組み合わせた独自の素材・ソリューションにより差別化

### 99% UVカット&IRカットガラス



高性能UV&IR吸収剤の開発と高品質なコーティング技術により、世界で初めてドアガラスでUV約99%カット&IRカットを実現。

### 透明導電膜付ウィンドシールド



特殊なコートガラスに施し、導電により素早く雪や氷を融かす。赤外線も反射し、夏は快適な車内環境を実現。

### 調光ガラス



2枚のガラスの間に特殊なフィルムを挟み、光の透過を自在にコントロール。心地よい光が降り注ぐ車内空間を実現。

### Low-Eガラス



ガラスに特殊な金属コーティングを施し、夏は日射熱を遮り、冬は熱を逃しづらく。EVの航続距離延長やCO2排出量低減にも寄与。

### 遮音ガラス



2枚のガラスの間に特殊な遮音膜を挟み、車外の騒音を軽減。ガラスの重量(厚さ)を増加することなく、快適な車内を実現。

### HUD用ガラス



ガラスに速度計やナビ情報等の情報を投影。運転中の視線移動が少なく、安全性を向上。

### ガラスアンテナ



アンテナをガラスと一体化。車両デザインを損なわず、耐久性にも優れる。“Connected”なモビリティ社会に対応。

### 太陽電池ルーフ



高い透過性を持つ曲面ガラスにソーラーパネルを内蔵。車内換気扇や駆動用バッテリーに電力を供給。

©AGC Inc. 6

ここからの2ページは、オートモーティブ事業の強みでもあります AGC の総合技術力を生かした高付加価値製品の事例のご紹介になります。

まず、コア事業である自動車用の外装窓ガラスの高付加価値製品についてです。個別の製品のご説明は割愛させていただきますが、CASE 時代の到来とともに、さらなる大きな成長が見込まれている製品が多数ございます。

今後より一層、これらをはじめとする高付加価値製品の拡販に注力し、事業ポートフォリオを変えて、中期的な収益性の改善を進めてまいります。なお、一部の製品については、後ほど個別にご説明いたします。

## 主要製品 (2) 車載ディスプレイ用カバーガラス

- 採用実績：2013年の生産開始以来、100車種以上2,500万枚以上の出荷実績



- 主な採用事例(一部抜粋)は以下の通り

採用企業	採用車種	社外発表時期
Audi	Audi "A8"	2017年9月14日
TOYOTA	LEXUS "RX"	2019年9月 2日
General Motors	Cadillac "Escalade"	2020年9月10日

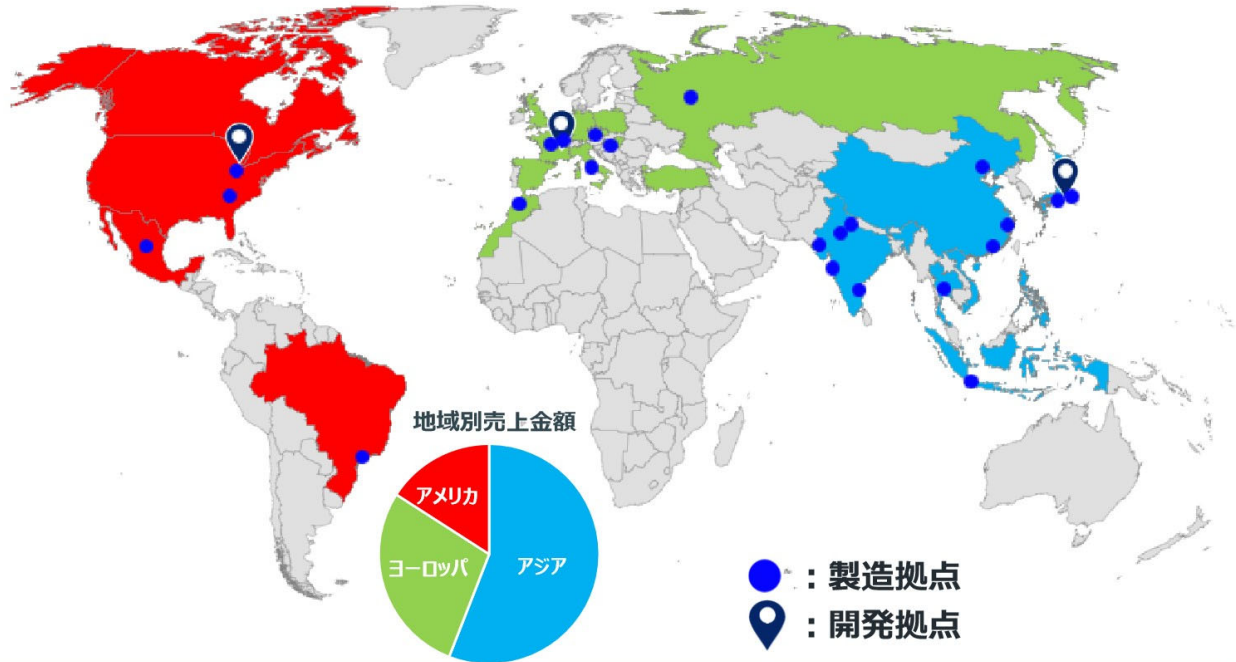
このページは、戦略事業でありますモビリティの主力製品である、車載ディスプレイ用カバーガラスのご紹介になります。

車載ディスプレイ用カバーガラスは、2013年に量産を始めたわけですが、それ以降、すでに2,500万枚以上の出荷実績を誇っております。当社は、化学強化ガラスを製品基盤とするハイエンドなカバーガラス市場に特化して、ビジネスを展開、拡大しております。

当社は、自社で手がける化学強化ガラスを基盤として、グループの総合技術力を結集し、フラットな形状のみならず、大型で複雑な形状の製造を可能とする世界最高の生産技術を有しております。AGCは、ハイエンドのカバーガラス市場において、すでに世界シェアトップを有しておりますが、ハイエンド品は今後さらに大型化、高機能化が進みます。

また、需要もますます拡大し、2021年から2025年では2倍以上の成長が見込まれております。われわれはこれに対応すべく、本年2022年、年初より最新鋭の中国新工場の量産を開始いたしました。

## ■ 高品質な製品・サービスを提供できるグローバルネットワーク



©AGC Inc.

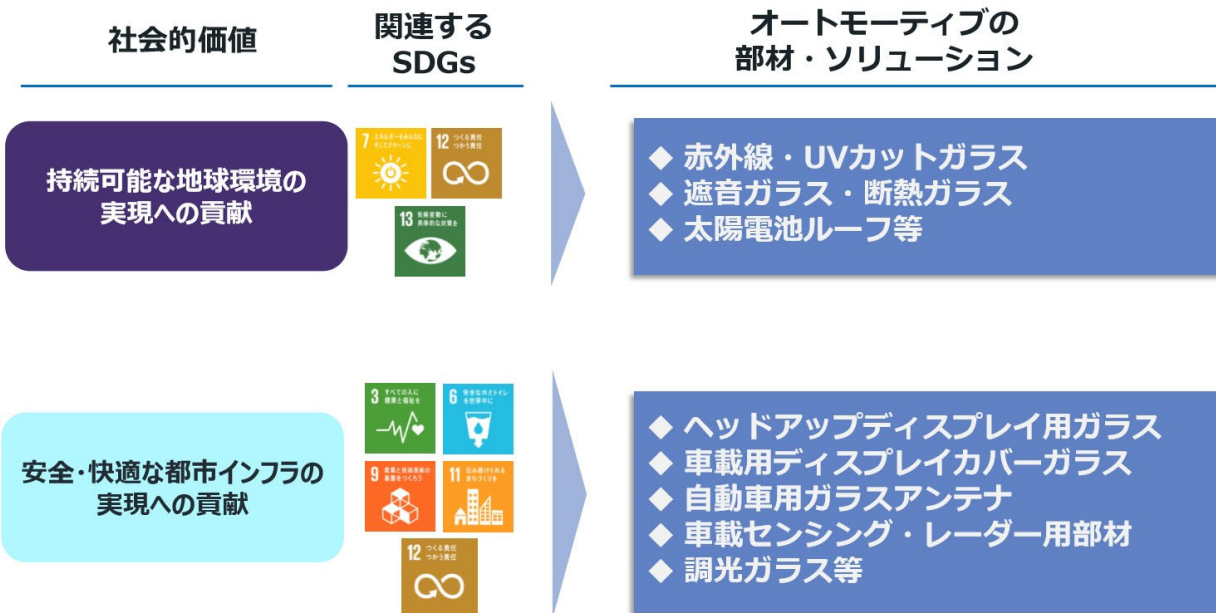
8

次は、自動車用ガラス事業のグローバルでの拠点マップになります。

地域別の売上は、円グラフでお示ししているとおりなのですが、2021年実績で、アジア、ヨーロッパ、アメリカでだいたい5対3対2の比率になっております。

また、製造拠点のみならず、開発拠点も3極に展開し、ガラスアンテナの開発用施設は3極に配置しております。これらのグローバルネットワークは、OEMとの強固な信頼関係の構築に貢献するとともに、アンテナ関連や、センシング関連の将来のモビリティ関連の新ビジネス創出の源泉でもあります。

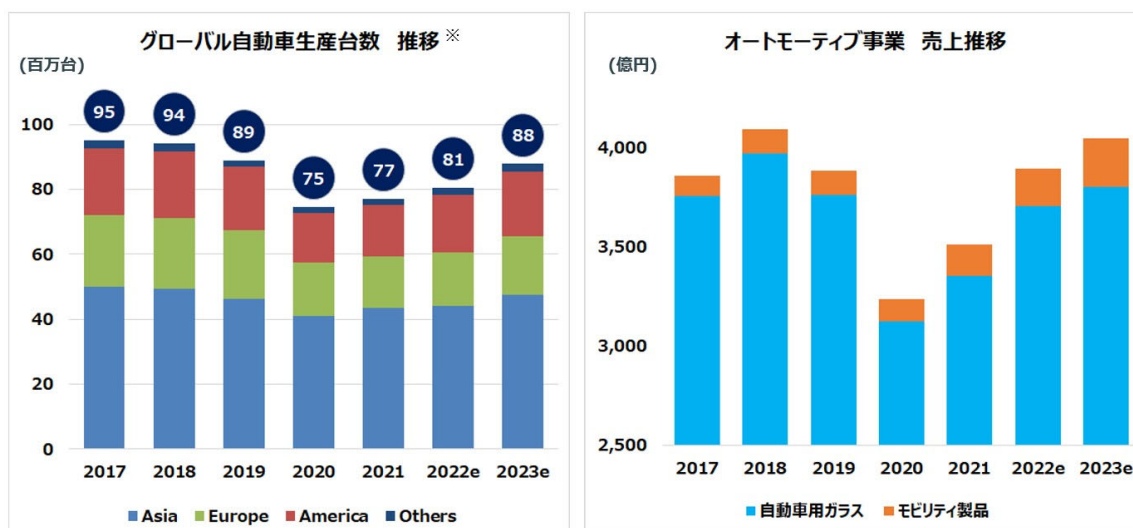




次は、オートモーティブ事業が提供しうる、サステナビリティの製品技術の1例でございます。

AGCグループ全体では、五つに分類した社会的価値の創出に通じる社会課題の解決に取り組んでおりますが、オートモーティブ事業では、特にその中で持続可能な地球環境の実現と、安全・快適なインフラの実現に貢献しうる製品、技術、サービスを備えております。今後はさらにこれらの高付加価値製品に注力し、社会的価値のみならず、収益性を含めた経済的価値の拡大にも努めてまいります。

- 20年以降は、コロナ感染拡大や半導体不足等のサプライチェーン影響により自動車生産台数が減少
- 24年に向けて自動車生産台数はコロナ前の水準へ戻り、当社収益も改善見込み
- モビリティ(車載ディスプレイ用カバーガラス) は、順調に伸長



※ IHS社データより

©AGC Inc. 10

次は、事業概要の最後のページになりますけれども、マクロでの自動車生産の動向およびAGCの売上の推移と見通しでございます。

まず、左のグラフは、グローバルにおける自動車生産台数の推移です。半導体といった部材の不足によるサプライチェーンの影響は、現在も継続しております。今後、段階的には回復してくると見えておりますが、コロナ前の水準に戻るのは2024年以降を想定しております。

次に、右のグラフは、オートモーティブ事業の売上金額の推移でございます。青い部分の自動車用ガラスは基本的には、生産台数と連動するため、今後、次第に回復を見込んでおりますが、やはりコロナ前の水準に戻るのは2024年以降を想定しております。

一方で、オレンジの部分ですね。戦略部分野であるモビリティ。現在は車載ディスプレイ用ガラス、カバーガラスが中心ですけれども、こちらは部材不足の影響も少なく、現在も順調に拡大しております。本年以降は中国新工場が量産を開始し、さらに売上拡大に貢献する見込みであります。

- 高付加価値品拡大し、事業ポートフォリオを改善
- 継続的な生産性改善とコスト削減を実現するとともに  
最適生産体制を構築して、  
収益性・資産効率を改善しキャッシュ創出力を強化



### 【追加施策】

- ✓ 販売価格政策の見直し
- ✓ 欧州における生産体制再編（生産能力 約3割削減）

次は、コア事業であります自動車ガラス事業の収益改善に向けた取り組みをご説明させていただきます。

自動車用ガラスでは、ここでお示しする2点が、現行の中期計画における大きな課題でございます。

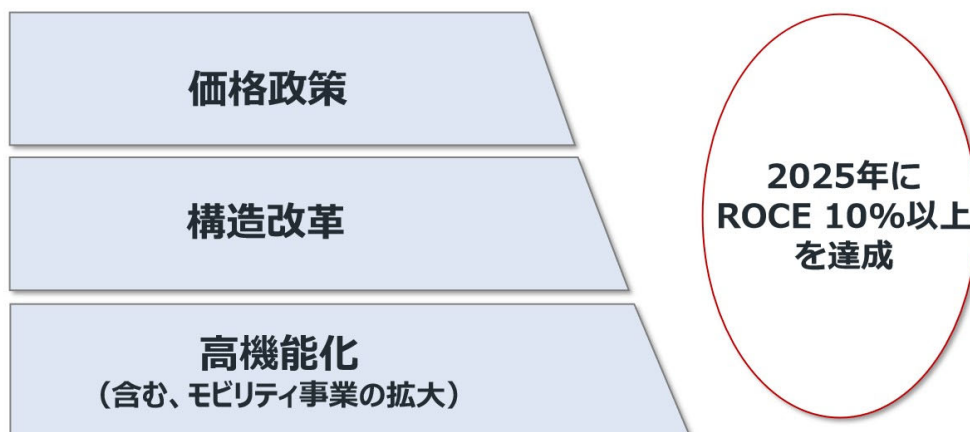
1点目は、高付加価値品の拡大ですけれども、先に触れさせていただきましたとおり、高機能製品の販売拡大に注力すべく取り組みを継続しております。2030年に向けては、高付加価値品の売上比率を現行の約2倍まで拡大させる計画になっております。

2点目の収益性・資産効率の改善については、全地域での生産性改善とコスト削減と合わせて、高効率設備への統廃合による最適生産は確実に進んでおります。一方で、半導体不足等によるサプライチェーンの混乱により、自動車生産台数の減少に加えて、特に欧州を初めとした原燃材料コストの急騰もあって、収益は大幅に悪化いたしました。

2021年、第4四半期では、ヨーロッパにおける減損損失を計上したものの、引き続き、依然として厳しい事業環境が続いており、そのため、本年第1四半期の決算発表時に公表いたしましたとおり、販売価格政策の見直しと欧州における能力削減を含めた生産体制の再編という、より強力な追加施策の実施が不可避となっております。

- グローバルに自動車用ガラス事業の価格政策の見直しを強力に実施
- 構造改革を含めた収益改善施策を推進
- 販売数量の拡大は志向せず、高機能・高付加価値の製品に注力

### 収益改善の3本の柱



このような状況を踏まえて、抜本的な収益改善に向けて、価格政策、構造改革、高機能化を三つの柱として取り組んでまいります。

まず、短期的な収益性の改善に向けては、価格政策の見直しが不可欠であり、適正な価格水準への引上げに向けて、すでに取り組みを開始しております。

次に、短中期では、これまで続けてきました高効率設備への統廃合による生産の最適化に加え、すでに発表しましたベルギー工場の閉鎖といったヨーロッパでの構造改革によって、生産能力およびコストの削減を確実に実施してまいります。ただし、工場の閉鎖や人員削減は、言うてすぐにできるものではありません。ベルギー工場の閉鎖も2023年末までかかりますので、効果の発現にはやや時間を要します。

そして三つ目として、中長期ではすでに触れましたとおり、高機能商品の販売拡大による収益性の向上を進めてまいります。ただし、この改善策も一朝一夕で変化するものではないため、グローバルでのネットワークを活かしながら、段階的に高付加価値比率を高めてまいります。

これらの改善策の結果として、オートモーティブ事業全体で、2025年にはROCE10%以上を達成する所存でございます。

- 原燃価格の急騰、コロナ・半導体不足による生産台数低迷により  
収支状況の大幅悪化が継続
- 事業継続に向けて、生産体制の再編等による資産効率の  
改善に加えて、販売価格政策の見直しが不可欠

- 適正な価格水準への引上げを強力に推進

ここからは、収益改善施策の3本の柱について、個別にもう少しご説明差し上げます。

まずは、販売価格政策の見直しについてです。

繰り返しになりますが、コロナ・半導体不足等による生産台数低迷に加えて、原燃価格の急騰により厳しい収益状況が続いております。構造改革を含めた生産性、コスト改善等におきましても、さらなる追加施策の実施をしておりますけれども、これらは即効性という点におきましては必ずしも十分とは言えません。足元の収益悪化は特に原燃材料高騰が大きく影響しております。

このため、早期の収益改善と将来にわたっての健全な事業継続には、即効性のある販売価格政策の見直しも不可欠と判断いたしました。これまでは、価格低下の抑制に重点を置いてまいりましたが、今後は適正な価格水準への引上げを強力に実行してまいります。特に、原燃影響の甚大な欧州、ヨーロッパから引上げ交渉を進めておりますが、欧州以外の地域においても、すでに交渉は開始しております。

### 生産性・コスト改善に向けた取組み

- グローバルベースでの改善活動を継続・強化
- 北米は、減損損失発生時(2019年末)の合理化改善計画を着実に実行中
- 欧州は、2020年以降、欧州本社やチェコ工場を中心に人員削減実施  
現状を踏まえ、**ベルギー工場とドイツアッセンブリー拠点を閉鎖予定 (～2023年)**
- **DXの取組みも加速**

### 最適生産体制構築に向けた取組み

- **高効率設備を導入し、高付加価値品拡大に向け活用**  
**低稼働・低生産性の旧ライン削減により生産集約 (欧州・北米・アジア)**
- 欧州は、生産拠点・生産ラインの統廃合を加速し、**生産能力を約3割\*削減**

\*2021年対比

次に、構造改革の取組みについてご説明いたします。

ご存知のとおり、北米では2019年に減損損失を計上し、その際に策定した合理化計画を着実に実施中でございます。この厳しい環境下でも結果は出てきているということでございます。欧州、ヨーロッパにつきましては、需要が大きく減少した2020年以降、生産性の向上とコストの削減に加え、欧州本部や主力のチェコの工場での人員削減等を実施してまいりました。

その結果、2021年上期には、収益もいったん回復いたしました。しかしながら、その後、自動車生産台数の減少に加えて原材料が高騰し、業績はまたしても大幅な悪化に転じ、昨年2021年末にて187億円相当の減損損失を計上いたしました。このため、早期での追加収益改善策が不可欠となり、すでに公表しましたとおり、ベルギー工場とドイツのアッセンブリー拠点の閉鎖を決定いたしました。

また、グローバルにおいても最適生産体制の構築には継続して取り組んでおります。高効率設備を導入する一方で、旧ラインを削減し、生産集約を順次実施しております。特に、ヨーロッパは拠点閉鎖を追加することで統廃合を加速し、約3割の生産能力を削減し、生産の最適化を進めてまいります。

- 高機能化へ進化を続けるグローバルOEMとの信頼関係
- グローバルネットワークを活用し、開発・展開を促進
- 事業ポートフォリオの改善により、収益性を向上

### 高付加価値品比率の推移 (モビリティ製品を除く)



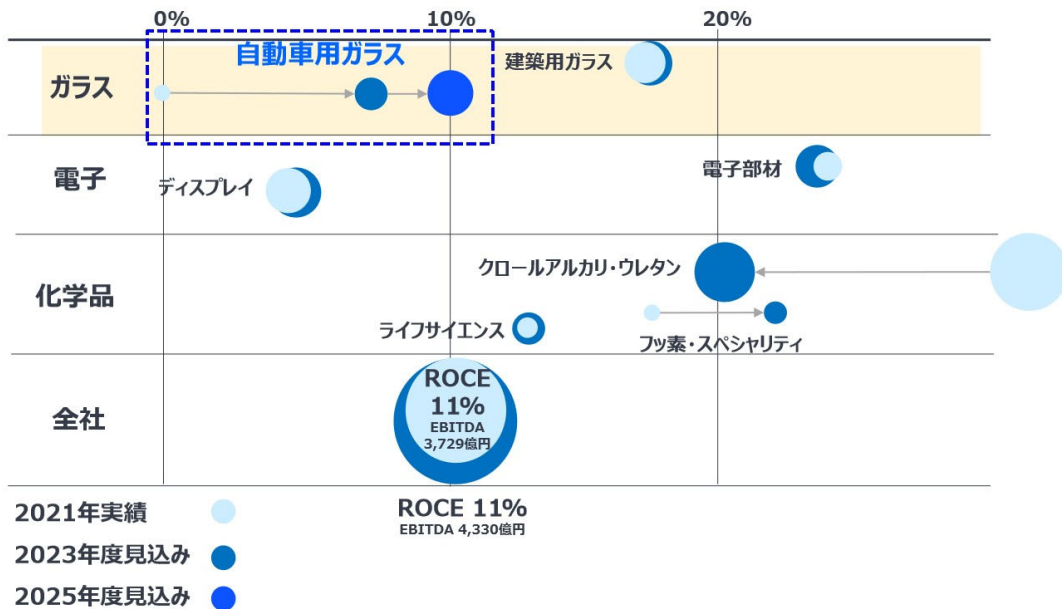
©AGC Inc. 16

次は、三つ目の施策であります高付加価値品の売上拡大についてです。

高付加価値品の売上は、2030年には現行の約2倍の比率を目指して収益性の向上につなげてまいります。一方で、これまでの数量規模拡大を目指した事業運営をあらため、過度な価格競争に陥りやすい低付加価値品は、順次抑制していきます。

欧州での生産能力の削減は、これらを想定した対応策になっております。事業概況で紹介したような、高機能品を積極的かつ適切に評価していただけるグローバルOEMメーカーとの信頼関係と、当社が持っているグローバルネットワークが高機能化へのシフトの実現を支えていくと考えております。

## 各事業のROCEイメージ



ROCE：(当年度営業利益予想) ÷ (当年度末営業資産残高予想)、全社営業利益は共通費配賦後、事業別の営業利益は共通費用配賦前  
 円の単位 (除く全社)： EBITDAの大きさ \*： EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

©AGC Inc. 17

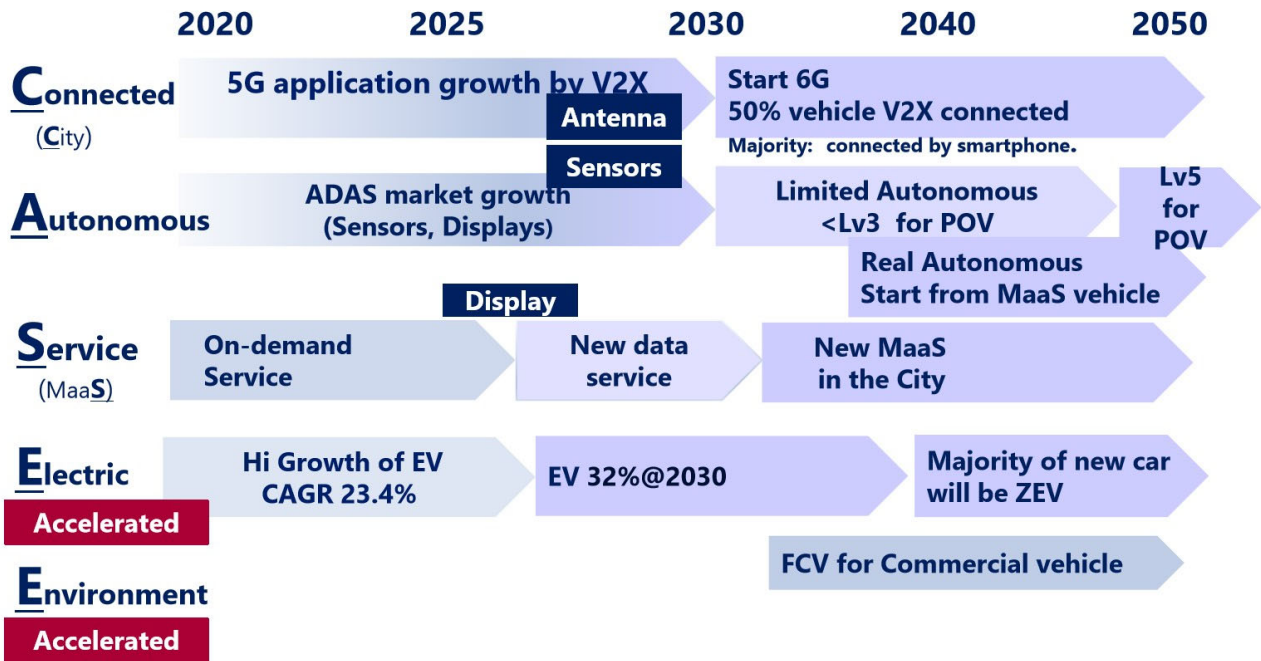
次は、オートモーティブ事業の資産効率についてです。

AGC 全体のポートフォリオ経営の観点から見て、ご承知のとおり、オートモーティブ事業は大変厳しい状況にあります。頼みのモビリティは現状ではまだ事業立ち上げ時期であるため、投資先行の状況にあり、資産効率の改善には寄与いたしません。

したがいまして、ご説明したとおり、短中期での施策の実施が急ぎ必要でございます。すでに全ての改善策に対して取り組みを開始しております。いずれも厳しい取り組みではありますが、実現の確度は低くないというのが、現在までの感触でございます。これまでの施策を確実に進めることで、2025年には10%以上のROCEを目指してまいります。



## 電動化・環境対応は更に加速中



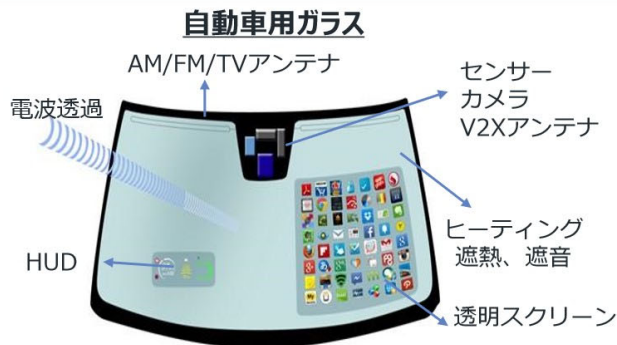
次は、CASE の発展とモビリティ社会の実現に向けた中長期での取り組みについてご説明いたします。

このページでは、今後の CASE 時代の進化と広がりを示しています。

次のページでご説明いたしますが、オートモーティブ事業のモビリティでは、ディスプレイ、アンテナ、センサーを三つの柱として、ビジネス化とその拡大に取り組んでおります。

ディスプレイの中心は、車載ディスプレイ用カバーガラスであります。すでに事業化し、規模が急速に拡大しております。それから、アンテナ、センサーにつきましては、今後の CASE のうちの C、Connected と、A、Autonomous の進展には必須の機能であり、当社事業も拡大を見込んでおります。

また、EV 化ですね。EV 化およびその環境対応は予想を超えて加速していることは、ご承知のとおりですけれども、この領域にも多くのビジネスチャンスがございます。EV 化の進展に伴うビジネスチャンスを確実に獲得すべく活動を続けております。社会的価値のところでご説明いたしましたサステナビリティ対応製品の販売拡大とともに、GHG 削減を含めた環境対応にも着実に取り組んでまいります。



ガラスのディスプレイ化や通信機能付加、センシングデバイスのための窓設計などにより  
素材だけでなくソリューションまで提供

ディスプレイ

車載ディスプレイ用カバーガラス



2019年発売のLEXUS「RX」などに採用されており、世界トップシェア

アンテナ

5G対応自動車用ガラスアンテナ



NTTドコモ、エリクソンと共同で「ガラス一体型5Gアンテナ」による5G通信に成功

センサー

LiDAR用カバーガラス  
センシングデバイスのための窓設計



LiDARを車載する上での安全設計や既存車体デザインとのシームレスな統合

このページでは、モビリティ社会・自動運転への対応として、AGCのモビリティ戦略をご説明いたします。

上段については、CASEの進化、拡大に際して、ガラス、特にフロントガラスへの機能装着の可能性を示しております。

そもそもなぜガラスなのかという点につきましては、特にフロントガラスは車両の前方の高い位置にあるという点と、ガラス自身の特性。これは視認性、透過性、耐候性、あと耐久性といったものですが、により理想のポジション、部材であるということでございます。ガラス表面や周辺に加えて、合わせガラスの内部、内面にさまざまな機能やサービスを付加するチャンスがあり、当社の強みを生かしたモビリティ社会に向けた新規ビジネスの創出を目指してまいります。

AGCのモビリティ戦略としては、下段でお示しするとおり、3本柱としてすでに事業化している車載ディスプレイ用ガラスを中心としたディスプレイに加えて、アンテナとセンサーを注力分野として設定しております。

アンテナとセンサーは、Connectedや自動運転には不可欠な機能であります。フロントガラスやリアガラスが、これらの機能の設置場所としては最も効果的であり、これまで培ってまいりました

ガラスアンテナを含めた設計能力や、ガラス総合技術、量産化力、あと、加えて強固な IP を生かして事業拡大が可能と確信しております。

収益の点からは、ディスプレイは本年、中国新工場が稼働したばかりの状況であります。それから、アンテナ、センサーのマーケット拡大ももう少し先になります。したがって、モビリティの利益寄与は、2025 年以降を予定しております。

## EV化による高付加価値品の更なる拡大

**AGC**  
Your Dreams, Our Challenge

EV化の拡大に伴い、従来の高付加価値品\*に加えて、  
**遮音ガラス、断熱ガラス、調光ガラス**を活用したサンルーフなど  
の需要拡大が見込まれる

**遮音ガラス**



2枚のガラスの間に特殊な遮音膜を挟み、車外の騒音を軽減。ガラスの重量（厚さ）を増加することなく、快適な車内を実現。

**Low-Eガラス**



ガラスに特殊な金属コーティングを施し、夏は日射熱を遮り、冬は熱を逃しづらく。EVの航続距離延長やCO2排出量低減にも寄与。

**調光ガラス**



2枚のガラスの間に特殊なフィルムを挟み、光の透過を自在にコントロール。心地よい光が降り注ぐ車内空間を実現。

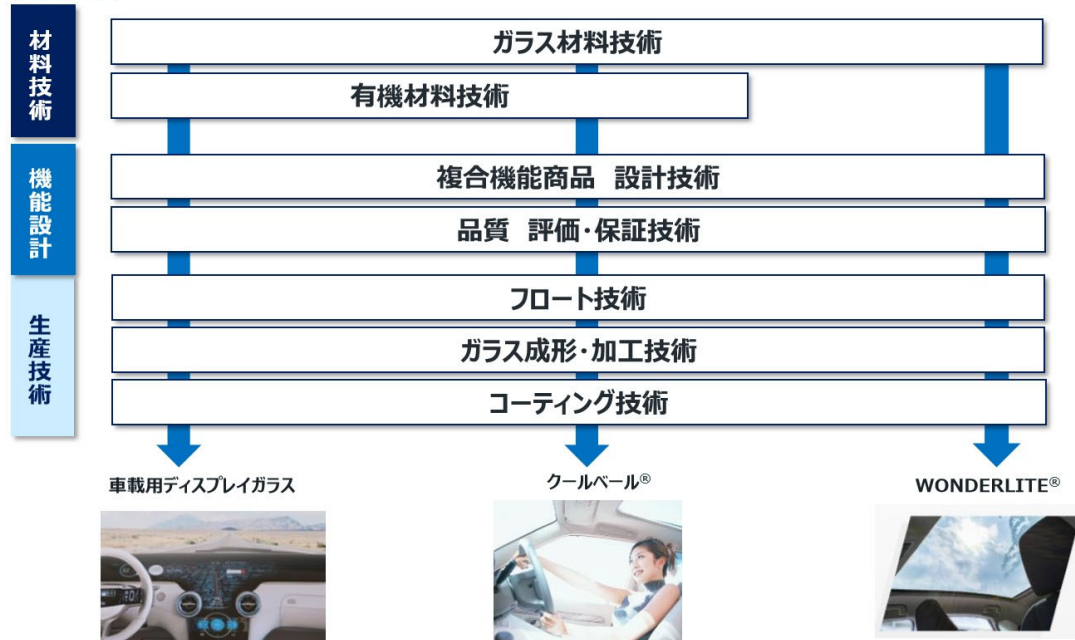
\* 赤外線カット、HUD等 付加機能・価値を付した商品

©AGC Inc. 21

次は、EV 化についてですが、今後、EV へのシフトに合わせて、遮音ガラス、断熱ガラス、調光ガラスといった高機能商品の需要の拡大が期待されております。

すでに多くのお客様から引き合いをいただいておりますが、特に断熱ガラスや調光ガラスを使用したサンルーフは、欧州や中国を中心に、複数のお客様からかなり強い引き合いを得ており、特に大きな拡大が期待できる分野の一つでございます。

- 有機・無機材料技術、共通基盤技術を組み合わせた 独自の素材・ソリューションにより 差別化



©AGC Inc. 23

最後の章です。オートモーティブ事業の発展、拡大の源泉であります、AGC の総合技術力について、商品も交えながらご紹介させていただきたいと思えます。

AGC の強みは、材料技術、機能設計、生産技術という三つの主体となる技術を組み合わせながら、差別化した製品を提供できることをごさいます。

AGC グループの総合技術力は、ガラス材料に始まり、無機だけでなく有機材料へ扱う素材を広げていく過程において培われた材料技術がその起点であります。オートモーティブ事業では、その材料技術をベースとして、コーティングや機能膜を活用した複合機能商品の設計技術と、それから、設計から量産までを見据えた品質評価および品質保証を提供する技術などによって、高機能化を実現する機能設計を蓄積してまいりました。

また同時に、安定的に高品質な製品生産を実現する革新的な製造プロセス、および独自設備を支える生産技術および量産化技術を磨き上げてきました。そして、これら三つのコア技術を組み合わせることで、市場が求める高機能商品を生み出してまいりました。

それでは、本日は三つの商品事例を簡単にご説明させていただきたいと思えます。

## 車載ディスプレイ用カバーガラス



「高い強度と質感」により、これまでに無い新しい価値を自動車内装部品に実現する化学強化ガラスを使用した車載ディスプレイ用カバーガラス

- 従来のガラスに比べて、高い強度と安定性を持ち、安全で快適なドライブ環境の実現に貢献しています。
- すぐれた耐傷性と独自の表面処理技術により、いつまでもキレイでつややかなガラス面を保ち、目に優しく・見やすいディスプレイ表示を実現しています。また、手触りの良い表面は指先での操作性向上にも役立っています。

### 【一般的な車載ディスプレイ用ガラスの構造】

指紋付着防止膜	
反射防止膜	
非光沢膜	
化学強化ガラス	
印刷	印刷

最初は、車載ディスプレイ用カバーガラスでございます。

車載ディスプレイ用カバーガラスは、まさに AGC の総力を結集した製品および事業です。主な組み合わせ技術は、自動車用ガラス事業で培ったホットベンド技術。いわゆる、加熱して曲げて成形する技術でございます。二つ目が、電子事業で養ったガラスの化学強化の技術。三つ目は、化学品事業で培った有機化学技術から開発されたコート材。そして最後、四つ目は、共通基盤技術で培った複層、多層ですね。1層、2層という複層コーティングに関わる生産技術でございます。

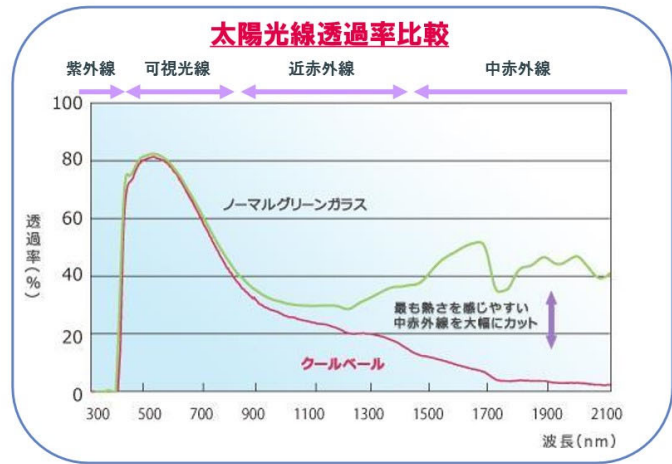
大型複雑形状のカバーガラスは世界で AGC にしか生産できません。今後、ますます大型化、複雑化に向かう市場トレンドの中で、AGC の技術力の強みがさらに生きてくると確信しております。

クールベール®



赤外線と紫外線の両方をカットし、さらに快適な車内を実現

- 太陽光線のうち、最も熱さを感じやすい**中赤外線**を効率的にカットし、直射日光による**ジリジリ感**を抑えます。
- 車内の温度上昇を抑え、快適性や**燃費**を向上させます。
- お肌の老化の原因となる**紫外線**も、約**99%**カットします。
- 電波透過性能を持ちます。



中間膜にIR(赤外線)カット剤を練りこみ、IRを効果的にカットします。



次は、赤外線カットガラスでございます。

この製品は、2枚のガラスの間に赤外線カット剤を練り込んだフィルムを挟み、ガラス内面に特殊な膜をコーティングした製品でございます。主に、赤外線および紫外線の両方をカットする一方で、電波透過性をも併せ持つ断熱ガラスになっております。車内温度を10から15度下げることが可能で、冷房効率の向上により、CO2排出削減やEVの航続距離の延長に寄与する商品ですが、これも三つのコア技術の組み合わせにより生まれた高機能製品でございます。

## WONDERLITE® Dx

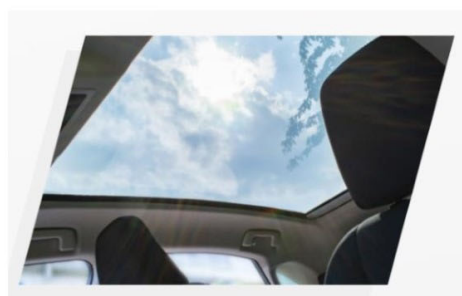
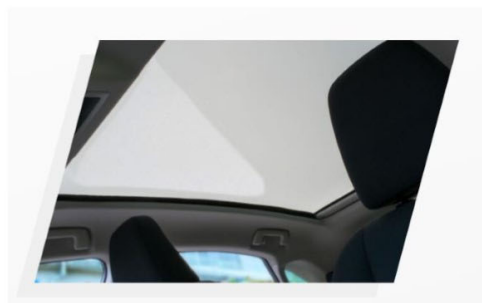
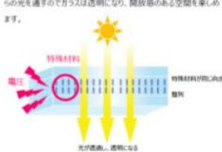
特殊なフィルムを挟み込む合わせガラスの構造  
調光モード（不透明な状態）では日差しを和らげ、  
透過モード（クリアな状態）では開放感を楽しめる  
シーンに合わせた車内空間を実現

- ・ 世界最速の切り替え制御
- ・ 調光モード⇔透過モードどちらでも紫外線を99%カット
- ・ 紫外線をカットし乗員の肌を守り、  
冷房負荷低減によるCO2排出量低減にも貢献

特殊材料がランダムに並んでいるため、外からの光が散乱され  
ガラスは不透明になり、眩しさを低減します。



フィルムに電圧を加えると、特殊材料は同じ向きに整列し、外か  
らの光を通すのでガラスは透明になり、開放感のある空間を楽しめ  
ます。



©AGC Inc. 26

これが、最後のページになります。最後は、最近話題になって、お問合せも増えております調光ガラスでございます。

主にサンルーフで使用され、光の透過率を自由に調整することができる商品で、登録商標名は WONDERLITE といいます。この製品は、二つのガラスの間に特殊なフィルムを挟み込む合わせガラスの構造になっており、透明な状態と不透明な状態を瞬時に切り替えることが可能です。いつでも開放感を楽しむことができ、心地よい車内空間を実現できます。調光モードでも透過モードでも紫外線を99%カットでき、冷房による負荷を低減することで、CO2 排出削減にも貢献できる商品でございます。

ご説明は、以上でございます。

オートモーティブ事業は、大変厳しい状況が続いておりますが、本日ご説明いたしました三つの改善策を実施することで、必ず復活できると確信しております。そして、それらと併せて、モビリティビジネスを確立、拡大することで、将来に向けて成長する事業にトランスフォームできると信じております。本日はどうもありがとうございました。